

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 1 月 28 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470205646		
法人名	社会福祉法人 藤愛会		
事業所名	グループホーム ハレ・クプナ		
所在地	広島市西区山手町 19番3号 (電話) 082-503-0081		
自己評価作成日	令和2年12月28日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyoSyCd=3470205646-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyoSyCd=3470205646-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和 3年 1月 28日 (木)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

介護度にばらつきがあるので、全体の一体感はないが、個人個人で自由に過ごして頂いています。スタッフも様々なケアが必要ですが、スタッフも順応し対応しております。コロナ禍ですが入居者様とスタッフが笑って過ごせるような雰囲気を作っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームハレ・クプナは、団地の中にあり、目の前をJRの電車が行きかい、少し歩を進めて踏切を渡ると太田川に出て、四季の移ろいを感じられ散歩コースとしても、とても良い所に位置している。「ハレ」家、「クプナ」尊敬を受けている高齢者・祖父・母親族を施設の名前に取り入れられ、名前の由来の通り、利用者にとっても、ゆったりとした生活、快適な毎日で健康管理・日常生活の援助等、真心のこもった支援を受けている。毎月のミーティングで事業所理念を唱和し、職員間で共有していると共に、全職員で話し合われ、利用者一人ひとりの思いに寄り添って、その人らしさを大切にしようという共通認識の下に、職員一丸となって理念に沿ったケアに取り組んでいる。又、この度の新型コロナウイルス感染防止対策として、利用者の外出や家族の面会が制限される中で、室内で過ごす事が多い為、職員が特技や趣味を活かした企画を立て、利用者を楽しんでもらう等、様々な工夫をして利用者の楽しみごとや気分転換の支援に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月のスタッフミーティングの時に復唱しており、寮母室や事務所に理念を掲示し、目に付くところで意識を促している。	法人理念とグループホーム理念を事務所・寮母室に掲示している。利用者に寄り添ったケアが出来ているか、毎日振り返る時間を設け、毎月のミーティングで理念を唱和し、立ち戻ってケアにあたるように話し合い、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	今年1年は、地域や外部との繋がりという部分では、コロナ禍で交流は難しかった。	町内会に加入しており、地域清掃やボランティアの方々によるフラダンス、アニマルセラピー、音楽療法等で交流している。又、町内会の行事に参加し(盆踊り・とんど)に参加したり、事業所での花火大会に参加して頂き交流している。しかしながら、今年度はコロナ感染症予防の為中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	いきいきサロンや、パッチワーク等の行事もなく、認知症の理解や支援の形を伝えることができなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族参加の運営推進会議や、行事などがたてられる機会がなく、報告書のみ伝えている。家族様の電話は以前より増え、電話で要望や近況を報告するようにしている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回家族・地域包括支援センター職員・消防署員・職員・管理者が参加して開催している。今年度に入ってから、コロナウイルス感染拡大防止の為、参加者の方には、書類を事前に送付し、意見や提案を記入して頂き、職員で開催している。利用者の状況、待機者、面会者の状況、行事予定と報告、職員の異動状況、事業所の取り組み等について報告し、質疑応答や意見交換を行って、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の報告書を提出しており、分からない事や相談はすぐ連絡している。	市担当者とは、直接出向いて更新手続きを行ったり、電話で相談して助言を得ている等、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換を行い、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフミーティングで資料を配布し、意識を高めている。見守りができるようにであれば、玄関を開放している。	職員は、法人内の身体拘束廃止研修での事例検討や、2ヶ月ごとの運営推進会議時の身体拘束適正化委員会で話し合い、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、気になる場合には職員間で注意し合ったり、管理者が指導している。玄関は開放しているが、外出したい利用者があれば、職員と一緒に外出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月のミーティングの際に、日々の介助の仕方、声かけの在り方などを振り返っている。気になる事があれば、伝えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	玄関のパンフレットを置いているが、職員全員が理解できていないのが現状。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	理解して頂けるように、ゆっくり丁寧に説明している。相談や質問に応えられるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会の際に、家族とお会いし管理者が要望を聞いている。	面会時や電話連絡の時に、利用者の日頃の様子を伝えている等、意見や要望を出しやすい雰囲気作りに努めている。毎月の事業所だより(近況報告)送付時には、担当職員が写真や手紙を添付し送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフミーティングや、個人の面接で意見を交換している。	管理者は、毎月の職員会議や日々の業務の中で職員の意見を聞いている。年2回の個人面接でも、意見を聞いている。業務内容の見直しや福祉用具の導入等、職員からの提案はその都度話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課や、業務日誌に目を通して。フロアでも顔を出し、個々の話をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部の研修に参加したスタッフは、スタッフミーティングで発表し、情報を共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	交流機会は、コロナ禍現在の状況では難しく、できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接記録をしっかりと把握してケアにあたっている。生活歴や繊細な部分も情報を共有するようにしている。入居されてからも、心境の変化、日々の状態を記録し、観察している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居当初は、家族も心配されている事が多く、電話での連絡を頻繁に行う。その際には、近況報告や要望を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	要望やニーズを聞き把握するようにしている。必要であれば、他サービスのご案内している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に暮らす家族として、家事等、一緒にして頂いている。感謝の気持ちも伝えている。又、本人の出来る事を判断し、ケアに繋げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	窓越しだが、定期的に面会して頂けるように声をかけさせてもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出は出来ないが、文通や電話などで関係を維持できている。	家族の面会や友人、自宅近所の人の来訪がある他、手紙や電話での交流を支援している。家族の協力を得て、かかりつけ医の受診、自宅への外出、誕生祝いの外食をする等、馴染みの人や場所との関係が継続出来るように支援している。コロナウイルス感染拡大防止の為、現在は手紙や電話等でしか実施出来ない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	リビングの席でも、相性をみて席を考えている。孤立されそうになれば、レクや体操等で工夫しながら、関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了の際、必要に応じて相談や支援に応える旨をお伝えしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様主体の生活ができるように、気分や体調を考えながら、食事時間や、起床時間を決めている。意志表示が難しい方は、表情やしぐさを見て、他スタッフと相談しながら検討する。	入居時のアセスメントシートを活用している他、日々の関わりの中で利用者の言葉や思いをケース記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族に相談して本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日々、コミュニケーションをとりながら、生活歴や暮らしを聞き把握している。家族の方にも確認をしながら共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	細かな変化や体調を記録し、情報を共有している。本人様の出来る事は、無理ない程度で行うようにし、記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフミーティングの際に、スタッフ全体でケアの在り方を話し合うようにしている。早急に話し合わなければならぬ場合は、その日のスタッフ同士で話し合っている。	職員全員で計画作成担当者を中心に、サービス担当者会議を開催し、日別の評価票、ケース記録、本人や家族、主治医・看護師・職員の意見を参考にして話し合い、3ヶ月毎にモニタリングを行い見直し、介護計画を作成している。利用者の状態に変化があった場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録や、申し送りノートで情報を共有している。日頃からの気付き等は、その都度話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ニーズに応じて出来る事、本人様が喜ばれる事は何か提案し、サービスを提供できるようにしている。なるべく本人様の気持ちに沿うような形で提案する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在、地域との関わりは難しいが、理美容サービスや訪問マッサージは活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設の提携先の病院だけでなく、入居前からのかかりつけ医を継続されたり、希望によっては24時間対応の医療機関へ変更している。	協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回の訪問診療を受けている。又、訪問看護師は、毎週火曜日に来苑して健康管理をしている。訪問歯科は、月1回往診に来ている。他科受診は、家族の協力を得て事業所が支援している。緊急時と夜間は、かかりつけ医と訪問看護師が24時間対応している。利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日頃、入居様の体調変化や気になった事は、逐一看護師に報告、相談をし、アドバイスをもらっている。指示があれば受診もしている。看護師は外部に委託している為、1週間に1度診ていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、施設での生活や様子をできるだけ情報を提供している。入院先には、連絡を取り合い本人様の状態を把握できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	最期どのようにしたいか、家族、本人様の希望に沿って話をしている。看取りも希望があれば行っており、24時間対応の病院も協力していただいている。	契約時に、重度化や終末期における事業所で出来る対応について、家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族、かかりつけ医と相談し、医療機関への入院や特別養護老人ホーム等への移設を含めて方針を決めて、全職員で共有し、支援に取り組んでいる。24時間対応の病院との協力もあり、希望者には、看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当や、初期対応マニュアルがあるが、実践できるような研修等はない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練を行っている。今年は、民生委員や家族を呼べなかった。土砂災害の訓練を年に1回を行っている。地震を想定した訓練は行っていない。	運営推進会議に合わせて、年1回は、消防署立ち会いで夜間想定火災通報、避難、消火訓練、連絡網の確認を行い、地域の方と利用者の方に参加して頂き実施している。初期消火後の避難経路について助言を受けている。1回は事業所独自で風水害、台風時を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議で訓練の報告を行い、地域の協力を要請したり、地域の避難場所について情報交換している。今年度の消防署参加は、コロナ感染予防の為中止になっている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	1人1人を大切に思い、個人に合った声かけ対応している。排泄の声かけも気遣っている。	職員は内部研修で、人権擁護、リスクマネジメントと虐待防止について学び、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。利用者への不適切な対応があれば、管理者がその場で注意したり、振り返りの時間を活用したり、個別面談や職員会議で話し合いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人様の思いや希望の聞けるように、選択しやすい方法を考え、工夫している。否定的な言葉は使わないようにしている。意思表示ができない方は、本人の体調や、表情で判断する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の生活リズムもその日で違う方もおられる。起床の時間や、食事の時間など、体調に応じて本人と相談している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個人の趣向や季節に合わせて装いを工夫し、整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	手作り昼食会は、今年ではできなかったが、季節を感じて頂く料理をお出しできた。食事の片付けは、一緒にして下さっている。	3食とも外部委託業者の配食を利用し、御飯は事業所で炊いて提供している。利用者は職員と一緒に、お盆拭き、下膳、食器洗い等出来る事をしている。おやつ作り(ぼたもち・おはぎ・おしるこ・梅ジュース・お菓子作り等)や行事食(お雛祭り・端午の節句・七夕等)で食事を楽しむ事が出来る様に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その人に合った食事の形態は、摂取できるようフロアで細かく刻んだり、ソフト食やゼリー食を提供するなどしている。食事量、水分量は記録し、1日を通して摂れるよう、心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	義歯、口腔内の洗浄だけでなく、その人その人に合った口腔ケアを行っている。必要であれば、舌ブラシや、口腔ケアティッシュを使用し、清潔を保っている。又、歯科のアドバイスもいただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中は、排泄のペース、間隔を記録し確認しながら、誘導を行っている。又、パットを使用する場合は、できるだけ尿量が少ない種類を使用している。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら、声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	薬に頼ることなく、牛乳や乳製品をとっていただいたり、体操やレクで身体を動かし、排便を促している。水分が足りていないと思う時は水分の声かけも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	午後より、3日に1回のペースで入浴できるようにしている。順番や入浴の有無は希望や体調によって判断し、時間を遅らせたり、次の日に入るなど変更している。	入浴は3日に1回行っており、なるべくお一人おひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。利用者の状態により、シャワー浴や清拭、足浴等を実施している。又、入浴時には、会話が弾み楽しみながら入浴している。入浴したくない利用者には、タイミングをずらしたり、職員を替えて声かけする等工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中でも疲れや眠気がある方には、その都度臥床し休んでいただいている。室温にも気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人のケースファイルに内服薬の処方箋があり、その方がどのような薬を飲んでいるか、効能、副作用の把握に努めている。服用の変更がある場合は、申し送りノートに記載し、注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナ禍で、制限はあるものの季節ごとの昼食会や、刺し子など企画している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在、コロナ禍で外出できていない。外出できない不安を軽減できるように、屋内での行事を企画している。	コロナ感染拡大の前までは、近くのコンビニに買い物に行ったり、公園に出かけたり、事業所前の河川敷に散歩に出かけ、地域の方と挨拶を交わして交流していたが、近々は外出を控えている。外出希望の強い方々には、施設内で誕生日会や節分の行事等を行い、気分転換を図っている。又、屋上に上り電車の往来や河川敷を見たり、花や野菜(ネギ・豆)をプランターで育て、水やりや収穫を楽しまれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	週1回のヤクルト販売で購入される際、小銭が出せるよう一緒に確認し出せるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙、年賀状のやりとりでは、継続できるよう切手や年賀状を購入している。最近、こちらから電話することが少なくなったが、家族様、友人様から電話かかってくることもあり、スムーズにお繋ぎしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングソファや、テーブルの位置を工夫し、誕生日会では、1つの大きなテーブルにし、雰囲気を大事に楽しんでいただいている。季節感のよう壁や玄関に飾り物を飾っている。	リビングの大きな窓から、新幹線・河川敷・山々の四季の移ろいが見え、安らぎの空間となっている。利用者が何時でも寛げるように、ソファやテーブル、テレビ等を設置している。壁面には、職員と利用者で毎月四季折々の作品を作り飾り、思い思いに寛いでいる。温度、湿度、換気、等適正に調整しており、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事の時、くつろがれている時、作業している時、状況に応じて席替えをしている。たたみスペースもあり、そこでくつろがれている方、会話している方がおり活用されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の写真、ご家族の写真、好みの物を置かれている。馴染みの物や、ご家族が購入された家具を置かれたり、その部屋ごとに個性がある。	本人や家族と相談しながら、机、イス、テレビ、仏壇、衣装ケース、時計、ぬいぐるみ、ラジカセ、本等、馴染みの物や好みの物を持ち込み、カレンダー、家族写真、造花、生花等を飾って、居心地良く過ごせるような工夫をしている。居室内を本人の思いで動けるように、一人ひとりの身体状況に合わせ、居室内の配置を工夫している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりや、手が支えるように物を設置したり、危ない角になるような所にはクッション材をつけたり、居室ドアが開きすぎでフラつかないよう、ドアを調節したり、できることを安全にしながら生活できるよう、配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念をスタッフルームへ掲示し、月1回のミーティングでの復唱なおを通して意識、実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの影響もあり地域行事に参加できていない。(盆踊りやとんど、テイルームを開放しての手芸クラブやいきいきサロンなど)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルスの影響もあり、外部との交流がなく、情報の発信ができていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルスの影響もあり、運営推進会議が行えていない。会議の報告書は作成し、ご家族やメンバーに配布している。ご家族には手紙や電話での近況報告などを行っている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の報告書を提出しており、分からない事や相談はすぐしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングの中で事例資料などから意識、再確認を行っている。玄関のカギについては基本施錠しているが、状況に応じて開錠する時間を作っている(掃除の際や見守り可能時)。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティングの中で虐待についての項目があり、事例などを通して意識し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	以前は施設内研修にて学ぶ機会があったが、現在は自動的に学ぶ機会はなく、把握はできていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	理解していただけるよう、きちんと説明を行い、質問や相談を受けられる環境をつくっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会の際に家族とお会いし、管理者が要望を聞いている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	意見の出やすい環境づくりを行っている。日々の申し送りやミーティングなど、あらゆる機会で見聞を求めている。年2回の個人面談の場もある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の人事考課にて面接を行い、プラスになっていくようしっかりと話している。意見なども確認し、改善への取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員へは業務のチェックファイルを作成し、スタッフ皆で新人教育、育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在の社会状況もあり、法人全体、外部との交流はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前情報を把握してご本人の理解に努めている。そして日々のコミュニケーション、関わりの中で気付きや変化などを通して関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	様々な意見、要望を確認し、思いを反映していけるように取り組んでおり、その中でご家族さまとの関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族へ要望を伺い、必要に応じて外部のサービス利用を含め情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	立場が上下にならないよう、気を遣わせないよう、時にはわがままも言ってもらえるような関係を心がけている。ご本人のできることや、やりたいことを判断しつつ、家事等のお手伝いをいっしょに行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	さまざまな行事などを通して一緒に参加できる機会を作りたいが、現状は窓越しの面会のみとなっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご友人の面会や電話などを通して支援に努めている。出来る限り関係が続いていけるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者さま同士の相性などをみて、声かけや座席の配置、日々の生活全般において、スタッフが間に入るなど上手く関係が保たれるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約の終了後はあまり関わりはないが、相談などいつでも受けられる体制ではある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の意思を表現できる方には確認を行い、それが難しい方は場合はスタッフ間で話し合い、ご本人の気持ちを考えたの支援をおこなっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前情報やご本人との関わり、ご家族との関わりをなかで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子やきづきなどを記録し、スタッフ間での情報共有、把握に努めている。普段のお手伝いなども無理のない声かけなどを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のミーティングにて、それぞれの見直しを行っている。変化があればその都度話し合い、より良い介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録や申し送りのノートにて状況把握に努め、情報共有もを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々ニーズに応じて出来る事、ご本人さまが喜ばれる事は何か等提案し、サービスを提供できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナウイルスの社会状況ではあるが、ヤクルトの訪問販売や理美容サービス、訪問マッサージなど可能な機関を利用し、生活支援にご協力いただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人、ご家族の希望によっては、提携のかかりつけ医だけでなく、入居前からのかかりつけ医や24時間対応の医療機関へ変更している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	小さな変化でも、なにか気付きなどあれば逐一看護師に報告や相談をし、指示、対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報のまとめを提供しあい、対応などをスムーズ、適切に行えるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人、ご家族の希望に沿って、ホームでの看取りの場合は24時間対応の病院も協力していただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当や初期対応のマニュアルがあるが、実践できるような研修、訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練や消防訓練を行っている。時期によってはミーティングでの再確認(ハザードマップ等)を行っている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者さまを主として考え、意思や思いを尊重して業務にあたっている。入浴時や排泄時などに対しても尊厳を保つケアを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いや希望を聞けるように選択しやすい方法を考え、工夫している。無理強いなどは行わない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その方々のペースに合わせて支援していくようにつとめているが、その時々によってはスタッフのペース配分や、その時の流れになってしまうこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	乱れがあればその時々でお伝えし整えていただいている。個人の趣向や季節に合わせた装いを工夫している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭きや配膳、片付けなど毎日のようにお手伝いしていただいている。(お手伝いの際は必ずスタッフがつかう状況をつくっている。)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者さまひとりひとりに合った食事の形態で提供している。食事量や水分量など記録、把握しバランスの取れた摂取量を目指している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを実施している。口腔ケア用品も個々に合わせてマウスウォッシュやマウスジェルを使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々で排泄のパターンを把握して、ご本人の習慣を意識した排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動による働きかけはできていない。排泄の管理表を作成し、下剤の調整も行っているが、できるだけ薬に頼らないような働きかけを行っている。(食べるものや水分量など)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	順番や入浴の有無など希望や体調によって判断し、時間をずらしたり、翌日に振り分けるなど変更も行っている。季節によってはゆず湯のご用意も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中も眠気、傾眠あれば臥床し休めるようにアプローチを行っている。臥床時は身体状況に応じたクッションなどを使用し、安楽な姿勢への支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人のファイルに薬の情報をファイリングしており、内容を把握するようにしている。服薬の変化などあればその都度状況、体調の変化なども確認、記録を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	閉じこもりがちな状況ではあるが、レク材やお手伝い、屋上への気分転換など、できること、使える資源を使ってアプローチを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルスの影響もあり、外出支援はできていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金所持者が少ない。毎週のヤクルト販売時に使う場面を作るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ケータイを所持、管理されている方もおられ、難しい操作などお手伝いをさせていただいている。退職されたスタッフと手紙のやり取りをされている入居者さまもおられる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	月替わりで季節に合った壁紙、装飾を行っている。空調の管理や温度、湿度の管理なども行き、過ごしやすい環境づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	座席だけでなく畳やソファなどを利用し、好みの場所でおしゃべりなどを楽しめる環境づくりを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた、見慣れた家具を配置し、安全にも配慮したかたちで安心のできる環境づくりを行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>動線上には手すりや支えになるものを配置し、角になるような場所にはクッション材を使用したりと、できることを安全に行っていただけるような配慮をしている。居室からトイレまでの距離がある方は、張り紙を設置してわかること、できることを生かした生活を送って頂いている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

グループホーム ハレ・クプナ

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

グループホーム ハレ・クプナ

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム ハレ・クプナ

作成日 令和3年1月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	31	訪問看護ステーションとの連携を円滑にする。	バイタル表の改正や緊急時の訪問看護とのやりとりの強化。	緊急マニュアルの作成。	3ヶ月
2	34	緊急時や急変時のスタッフの対応。	スタッフの不安感を取り除く為、知識を培う。	訪問看護と相談し、詳しいマニュアルを作成する。	半年
3	8	権利擁護の制度理解ができていない職員がおり、理解を深めた	日常生活自立支援事業や成年後見制度の理解を深める。	スタッフミーティングの際、資料を準備し配布する。	2ヶ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。